



屋根材

鶴弥高耐久瓦

粘土瓦



耐用年数

60年以上

※ 一般的な屋根葺材の
メンテナンス不要期間は
10年程度

製品の概要

基材・塗膜、すべて無機物から成る屋根材です。

製品の特徴

1,130度の高温で焼くことで安定したガラス質となり、太陽光の紫外線や熱、酸性雨で劣化しにくく、初期の美観・機能を長期に維持します。

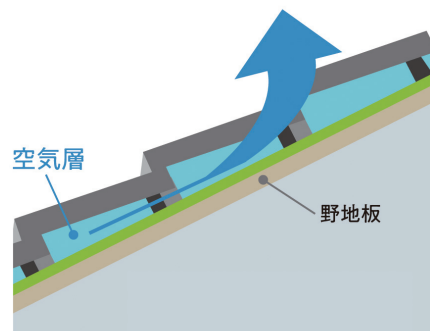
■ 防災性



■ 耐久性

瓦は1,130度の高温で焼成する事で、製品となります。焼成後は強固な無機質となり、表面には安定したガラス膜が形成されるため、太陽光の紫外線や熱、酸性雨の影響を受けにくくなることで60年の耐久が期待できます。

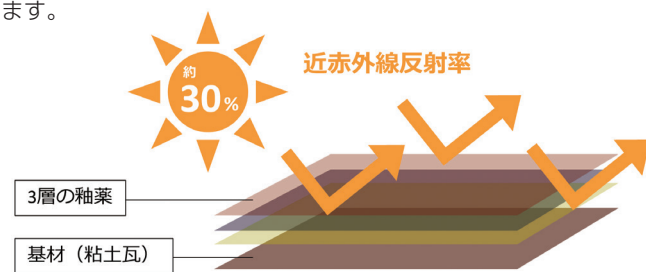
また、製品本体(瓦)だけでなく、施工する際にできる空気層が屋内外の温度差を和らげる断熱材の働きをすることで内部結露を防ぎ、また、上昇気流により熱気・湿気の排出を促すことで、屋根全体の耐久性向上、耐力維持が期待できます。



空気層があるから湿気を逃し、結露しにくい

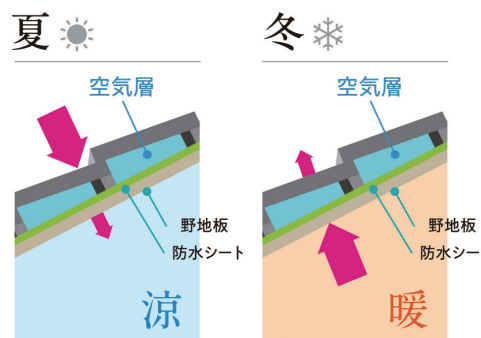
■ 遮熱性

瓦は表面が複合着色ガラス層からなります。各層が各光域の太陽光線を効率よく反射するため、反射率が高く、他屋根材に比べ瓦は4倍もの反射率があります(屋根材で多く採用される黒色と比較)。高い反射率により熱を吸収しにくく、瓦の表面および屋内の温度上昇を防ぎ、夏場も快適な空間が保てます。また、温度上昇を防ぐことで、ルーフィングの劣化を抑制し屋根全体の耐久性向上が期待できます。



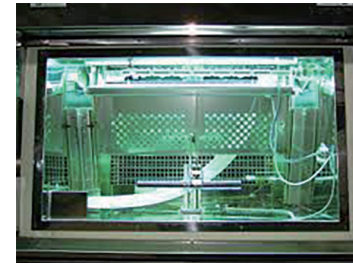
■ 断熱性

瓦は焼き物特有の熱を伝えにくい性質をもちます。その優れた特性に加え、施工する際にできる空気層が断熱材の役割を果たすことで、より断熱性能が高まります。夏は太陽の熱を伝えにくく、冬は熱を逃がさない、一年を通して快適な空間を保ちます。



耐用年数の根拠

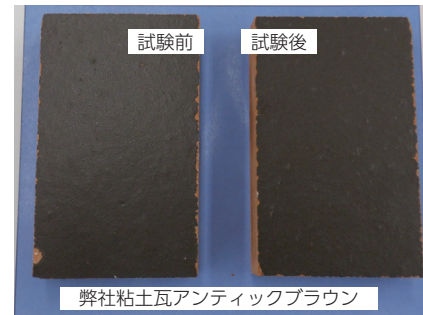
同条件の試験機(メタルウェザー)に、粘土瓦をセットし、30年相当の紫外線劣化促進試験を行い、色差および光沢度を測定した結果、30年後も新築時の美しさが続くことがわかりました。



試験槽内(照射時)



試験機(メタルウェザー)



平均色差
ΔE:0.35

平均光沢度変化率
2.9%

設計・施工

設計および施工については、瓦屋根標準設計・施工ガイドラインにそって行うものとします。



一般資材との違い

粘土を高温で焼成した焼き物であるため他の素材で作られた屋根材より圧倒的に耐久性が高くなっています。
1400年も前の瓦が現役の屋根として活躍しています。
長い歴史で実証された優れた耐久性を昔から変わらず守り続け、高耐久資材として今も親しまれています。

メンテナンス

定期的な点検1回/10年
必要に応じて補修が必要(約10万円/回~)
特に面戸など瓦以外の部分のメンテナンスが重要です。

特にアピール

和瓦から平板瓦(フラットタイプ、波型タイプ)、緩勾配対応瓦、軽量瓦、幅広く製造・販売しています。
すべて防災瓦なので台風・地震にも安心です。

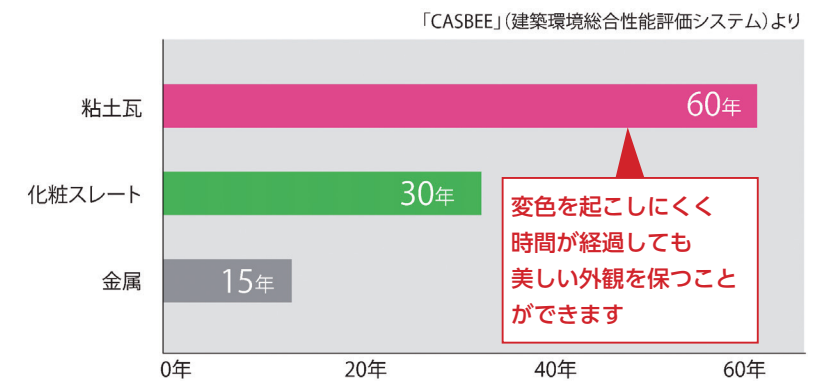
免責事項・適用条件

製品保証 20年
機能保証 60年
※美観は含まない

提供価格

切妻 ￥9,900/㎡~
寄棟 ￥10,400/㎡~
(工事設計価格:2023年度時点)

■ 屋根材耐久年数



LCC

高耐久仕様 : 一般仕様 ± 0円
一般仕様 : 90万円

※一般仕様で60年以上の高耐久が期待できる
※60年間でのメンテナンス(使用)時のみのコスト比較
※メンテナンスは面戸などの点検補修

株式会社鶴弥 開発部
電話 0569-77-0797
<https://www.try110.com/>

ホームページはこちら

